

- ★ 植付時期による、生育のバラつき有り！
 ★ 幼穂形成期は「ふさおとめ」が6月13日頃から、
 「ふさこがね」が6月14日頃から

1 君津地域の生育概況

5月中旬以降は平年と比較して気温がやや高い日が続きました。そのため、4月中旬に植えた「ふさおとめ」、「ふさこがね」を中心に生育が旺盛に進みました。低温と強風による影響を受けた4月末から5月初めに植え付けたほ場も分けつが確保されてきているため、それぞれのほ場の生育状態を確認し、中干し等の適切な管理を行いましょう。

また、4月20日植え「ふさおとめ」は6月13日頃から、「ふさこがね」は6月14日頃から幼穂形成期（出穂25日前、幼穂長1mm）になる見込みです。

2 生育調査ほの調査結果（5月31日）

品種	年	田植え日	葉令	草丈(cm)	茎数 (/株)	茎数 (/㎡)	単葉葉色
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	1	4/16	9.7	37	27.9	452	45.0
	平年	4/16	9.4	38	30.4	459	45.2
	平年比	±0	0.3	97%	92%	98%	100%
ふさこがね (君津市)	1	4/15	9.4	40	35.2	482	45.9
	平年 (参考)	4/20	8.4	—	—	—	—
コシヒカリ (君津市)	1	4/28	8.2	34	28.1	441	41.3
	平年 (参考)	4/20	8.3	—	—	—	—
コシヒカリ (木更津市)	1	5/6	4.3	29	12.1	202	40.4
	昨年	5/3	7.6	33	15.6	296	42.9

※1 平年値は過去10か年（平成21年～30年）平均値。ただし、君津市のほ場は調査ほ場を変更し、過去との生育比較が困難なため、平年値は参考となります。また、木更津市のほ場は26年から調査を始めたため、平年値はなしとなります。

-郵便で配信している方へお願い-

稲作情報の配信を郵便から、電子メールまたはFAXに切り替えを進めています。

電子メール・FAXをお使いの方は、下記までご連絡ください。

連絡先 宇津木 i.utsg2@pref.chiba.lg.jp 0438-23-0299（電話）

3 これからの管理のポイント

① 「ふさおとめ」「ふさこがね」の幼穂形成期（出穂 25 日前・幼穂長 1mm）の予測

品種	植付時期	幼穂形成期予測	穂肥適期の目安	冷害危険期予測
ふさおとめ	4月20日	6月13日～	6月13～20日	6月23日～
ふさこがね	4月20日	6月14日～	6月21日	6月24日～

② 「ふさおとめ」「ふさこがね」の穂肥

穂肥の施用適期は、幼穂長で判断されます。生育が適正範囲内であれば、

- ・「ふさおとめ」は幼穂長 1mm～10mm（幼穂形成期～出穂 18 日前）
- ・「ふさこがね」は幼穂長 10mm（出穂 18 日前）

の時にチッソ成分で 3kg/10a を標準に施用します。

生育が過繁茂となっている場合は、施用時期は遅らせずに、量を減らして施用します。穂肥が遅れると玄米に含まれるタンパク質が増えて食味が悪くなる傾向があります。なお、「ふさこがね」の穂肥施用時の適正な葉色は他の品種に比べて濃いのが特徴で、カラースケール等で葉色を確認して、適正な葉色であれば穂肥を基準どおりに施用します。

幼穂形成期の目標とする水稻の姿

品種	草丈 (cm)	茎数※ (本/株)	茎数 (本/m ²)	群落葉色 ※※
ふさおとめ	55 以下	31～34	570～620	4.0
ふさこがね	60～65 以下	25～27	450～500	5.0
コシヒカリ	70 以下	23～30	430～560	3.5～4.0

※坪 60 株植時の 1 株当たり茎数の目安、※※カラースケール値による。

③ これからの水管理について

上記①の幼穂形成期の予測日を目安に観察し、幼穂が確認できたら速やかに入水し穂肥の準備をしましょう。

④ イネクロカメムシの防除

イネクロカメムシは、近年、君津地域全域で発生しています。斑点米カメムシと違って斑点米を作ることは少ないのですが、水稻の茎を吸汁します。吸汁されると葉先の黄変や葉を横断するように黄白色斑点状の食害痕が出て、茎数が減少したり、不稔籾が増加したりするほか、白穂の発生原因にもなります。

5月中旬～6月に水田に飛来し、6月下旬には卵を産んで増えます。田の畦際から侵入するので、その周辺の株元を良く見回り、食害痕が目立つ場合や発生が多い場合は早めに防除しましょう。

なお、日中は株元に生息することが多く、薬剤が直接かかりにくいので、稲が薬剤を吸収して効果を発揮する浸透移行性薬剤であるスタークル／アルバリン粒剤等による防除が効果的です。

⑤ 後期除草剤を使用する際の注意点について

クリンチャー1 キロ粒剤に代表される後期除草剤は、とりこぼした雑草や後から発生してくる雑草に効果を発揮する剤です。しかし、「落水」状態で散布、「湛水」状態で散布する剤がありますので、使用前にはラベルの確認をしましょう。

※ 次号は「6月21日頃」発行予定